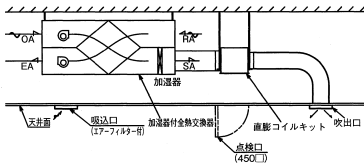


⑤ダクト工事



- ①エアコン本体にはエアフィルタが付属されています。掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
- ②吹出口は室内全館に空気の流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- ③天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モーター、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ④ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは65mm (JISA 9501) です。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
冷媒R22で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点に注意してください。
・薄肉配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金組目無銅管 (C1220T、JISH 3300) をご使用ください。
また管の内外部は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
R410A以外 (R22等) の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともロウ付けする直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。
- ガス側配管はサービスパネルを取り外し可能とするため配管方向がどのような方向でも必ずユニットから40.0mm以上のストリート部分を設けてください。

作業手順

1. ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
2. 室内機のろう付部は、ガス漏れチェック後、断熱材 (現地手配) をかぶせてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。現地で断熱材を手配し断熱してください。断熱材の厚さは20mm以上としてください。
3. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

形式	液配管	ガス配管	フレア接続
SAF-DXP10003	φ9.52	φ15.88	フレア接続
SAF-DXP8003	φ6.35	φ12.7	フレア接続
SAF-DXP5003	φ6.35	φ12.7	フレア接続
SAF-DXP3503	φ6.35	φ9.52	フレア接続

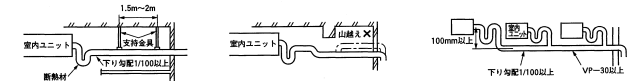
⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

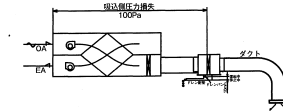
- ドレン配管は必ず保温してください。保温は室内機内のドレンパン側面のソケット部まで行ってください。
配管工事に不備があると、水漏れにより、家財・電算機等を濡らす原因となります。
- ドレン配管を接続する場合、室内機側の配管に力を加えないように注意を行い、出来る限り室内機近傍で配管を固定してください。
- ドレン配管は、室内機外側に下り勾配 (1/50 ~ 1/100) とし、100mm以上の水封が作れるトラップを設けてください。(臭気止め、逆流防止の為)
- 配管施工後、排水が良好に行われていることと、水漏れのないことをご確認ください。
- ドレン配管の出口は臭気発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレンパンは定期的に清掃してください。
- ドレン配管サイズは途中で細くしないでください。またドレン配管が集合する場合は十分な大きさとしてください。

警告

ドレン配管は、硫黄系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

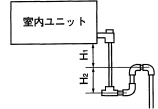


ご注意 ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。



(トラップの施工)

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを (配管工事のとき) 1箇所設けてください。
トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。右図に示すように下形継手を使用してください。またトラップの高さも右図の様な寸法としてください。
トラップはユニットの近くに設けてください。



- ドレン配管の途中に1箇所、左図のようなトラップを設けてください。

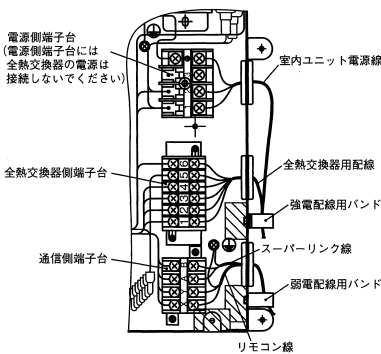
排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。
○点検口をはずし、ドレンパンに1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。
又、水漏れのないことをご確認ください。

⑧電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」 「内線規程」 及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- 0種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事は、付属の電気配線工事説明書 (PCH012D005) をご覧ください。

1. 電装箱の蓋 (ねじ2本) を取り外し、上部の引掛けを外してください。
2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の接続銘板参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



詳細は付属の電気配線工事説明書 (PCH012D005) を参照ください

⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良など…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
②の風量範囲に入っていますか。	冷えない・暖らない	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖らない	

- チェック終了後、試運転を行ってください。試運転は室外機据付工事説明書に記載の手順で行ってください。